

## トムラウシ南沼汚名返上プロジェクト 令和3年度の取組みについて

村上 桐生（北海道十勝総合振興局保健環境部環境生活課自然環境係）  
齋藤 佑介（環境省大雪山国立公園管理事務所上士幌管理官事務所）

### 1. トムラウシ南沼汚名返上プロジェクトの立ち上げ

トムラウシ南沼野営指定地（以下、「南沼野営指定地」）は、大雪山国立公園特別保護地区内に位置し、多くの高山植物が一面に咲き乱れる美しい景観が広がる。大雪山縦走やトムラウシ山登山の拠点として登山者からの人気が高い南沼野営指定地では、長年にわたって深刻なトイレ問題を抱えている。岩陰等に排泄物の放置やティッシュペーパーの散乱が目立ち、用を足すために植生が踏まれ裸地化して土壌侵食が進んだいわゆる「トイレ道」が複数延びている。

この問題を解決すべく、悪臭が漂い登山者から「日本一汚い幕営地」と揶揄されてしまうほどの状況であった南沼野営指定地について、「トムラウシ南沼汚名返上プロジェクト」（以下、「南沼プロジェクト」）と称する取り組みが、平成29年4月に開始された。南沼プロジェクトは、「大雪山国立公園新得地区登山道等維持管理連絡協議会」の下に創設した「山岳トイレ環境対策部会」（以下、「部会」）の活動という位置づけで、関係行政機関や山岳関係団体が協働して進める取組となっている（表1）。

表1 山岳トイレ環境対策部会の概要

大雪山国立公園新得地区登山道等維持管理連絡協議会 山岳トイレ環境対策部会	
発足	平成29年4月17日
部会長	新得山岳会会長 小西 則幸
事務局	北海道十勝総合振興局環境生活課
構成員	環境省上士幌管理官事務所、林野庁十勝西部森林管理署東大雪支署、北海道十勝総合振興局、北海道上川総合振興局、新得町、十勝山岳連盟、新得山岳会、山のトイレを考える会



令和元年新設携帯トイレブース



南沼野営指定地のトイレ道

## 2. 南沼プロジェクトのこれまでの取組

平成 29 年度～令和 3 年度の 5 年間で、プロジェクトメンバーの協働により、次の活動を実施した。

- ① 普及啓発活動
- ② ティッシュ痕回収作業
- ③ トムラウシ山南沼野営指定地利用者に対するアンケート調査
- ④ 南沼野営指定地の設営テント数調査
- ⑤ 携帯トイレブース利用状況調査
- ⑥ トイレ道の植生復元活動
- ⑦ 携帯トイレブースの増設
- ⑧ 携帯トイレ配布ボックスの設置 (令和 3 年度実施)
- ⑨ トムラウシ短縮登山口アンケート調査 (令和 3 年度実施)

このうち、令和 3 年度に実施した⑧、⑨について次のとおり紹介する。平成 29 年度から令和 2 年度の主な活動（上記①～⑦）については、昨年度（第 22 回）フォーラム寄稿を参照いただきたい。

## 3. 令和 3 年度の取り組み

### 【携帯トイレ配布ボックスの設置】

携帯トイレについては、新得町内のコンビニエンスストアやトムラウシ温泉東大雪荘などの施設において入手できる環境が整っているが、長い林道を進んだ先にある短縮登山口では、出発時に携帯トイレの持参を忘れたことに気付いても引き返して携帯トイレを入手することは現実的に難しい。そこで、短縮登山口にあるバイオトイレに、無人の携帯トイレ配布ボックスを設置し、持参を忘れた方や、南沼にトイレがないことを知らなかった方でも、協力金（携帯トイレ 1 個当たり 500 円）を支払うことで、携帯トイレを入手できる取り組みを試行した。

協力金は、定期的に大雪山国立公園連絡協議会（以下「大連協」という。）事務局で回収し、携帯トイレ補充の原資としている。



携帯トイレ配布ボックス



配布数：190個 回収金額：75,781円 1個あたり平均：398円

配布実績の詳細については次のとおり。

トムラウシ短縮登山口 携帯トイレ配布ボックス 協力金回収実績（確定値）

設置期間：令和3年7月9日午前11時～令和3年10月13日正午

確認日	配布個数（個）	回収金額（円）	協力金／個（円）
7月28日	42	24,951	594
8月7日	30	7,210	240
8月9日	13	1,845	141
8月27日	44	17,007	386
9月2日	17	6,582	387
9月17日	21	9,986	475
9月29日	16	8,200	512
10月13日	7	0	0
計	190	75,781	398

参考 携帯トイレ回収数（単位：個）

	6月	7月	8月	9月	合計
短縮登山口	42	383	383	345	1,153
温泉登山口	0	140	90	70	300

**1,453個**

回収した協力金はこれまでのところ、携帯トイレの補充に充てているが、協力金の額が増えてくれば、登山道の補修や維持管理への活用も視野に入れている。

また、短縮登山口には使用済み携帯トイレを入れる回収ボックスを設置しているが、配布ボックスを設置し携帯トイレの利用数が増加したこともあってか、ピーク時には回収ボックスが溢れかえるほどの携帯トイレが投入されていた。

携帯トイレの使用率が上昇し、山頂付近のし尿が減ることは、本プロジェクトの大きな成果であるが、使用済み携帯トイレの回収・処理については、新たな課題となった。

来年度以降、回収頻度を増やす、現行よりも大きな回収ボックスの設置をするなど、改善に向けた検討が必要である。



全体像



7月末の回収ボックスの様子

### 【トムラウシ短縮登山口アンケート調査】

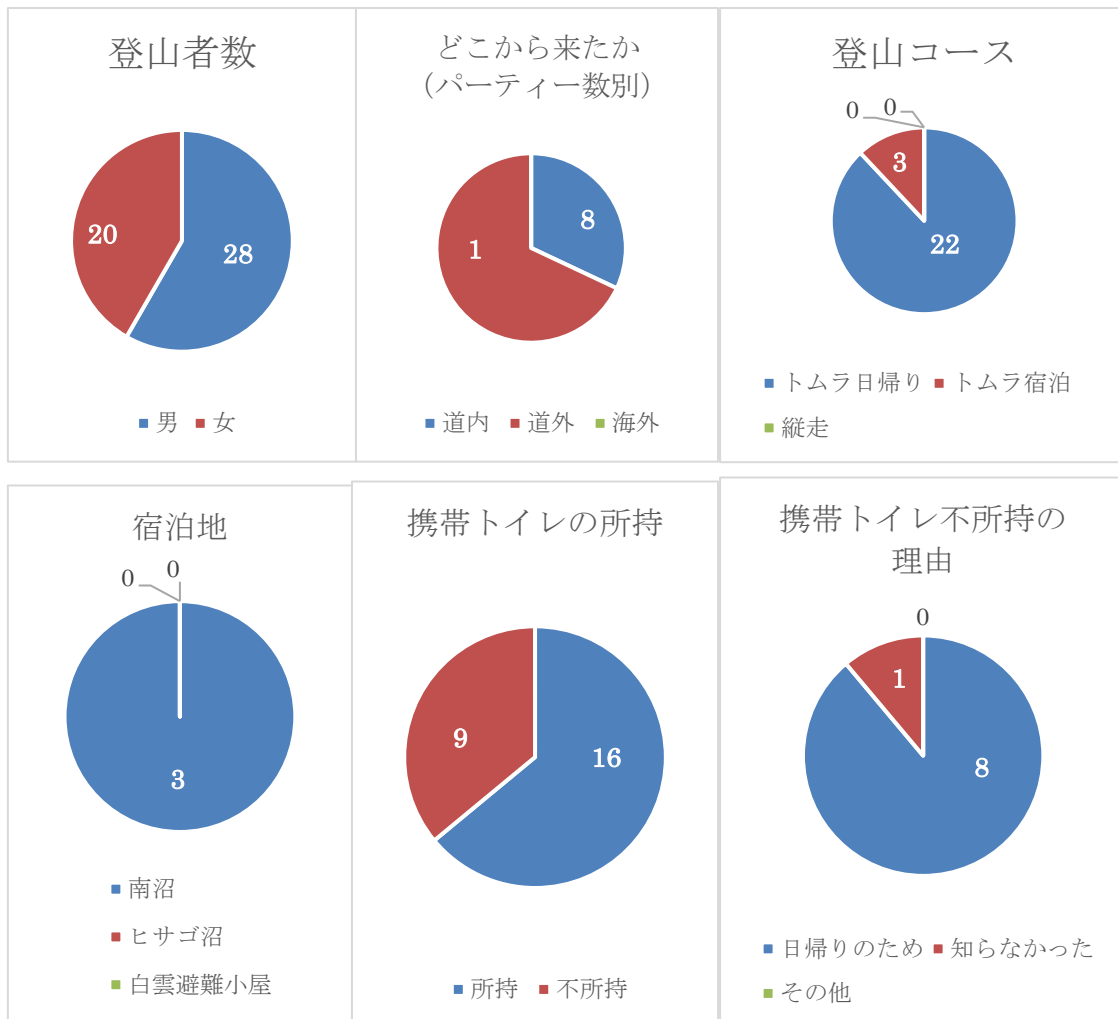
登山者が多く見込まれる8月8日(日)の山の日に合わせて短縮登山口でアンケート調査を実施し、携帯トイレの普及啓発を行うとともに、携帯トイレ普及の実態や利用者からの声を聞き取った。

想定では100名前後の登山者を見込んでいたが、当日は台風の影響で天気が不安定だったこともあったためか、午前3時30分～午前7時までの時間で、想定より少ない25パーティ、計48名の登山者から聞き取りを行った。

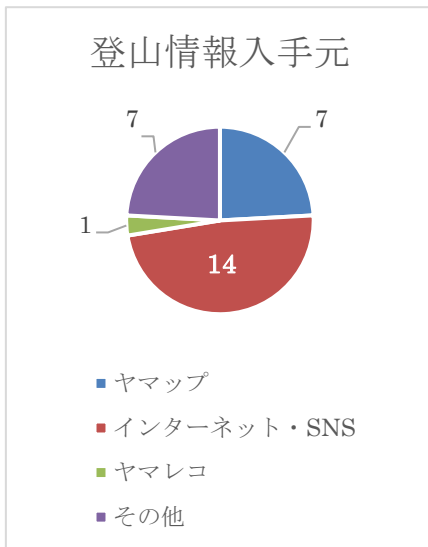
集計結果から、以下のような傾向が見られた。

- ・登山者は道内より道外の利用者が多く、トムラウシ山日帰りがほとんどであった。
- ・携帯トイレの所持率は64%である。所持している方からは「登山で携帯トイレを持つのは当たり前」、「どこの山に登るにも所持している」などの声が聞かれた。不所持の方でも携帯トイレの必要性は知っているが、「日帰りのため所持していない」という理由がほとんどであり、小使用のボトルを携帯している利用者も多い。
- ・「携帯トイレが必要と知らなかった」と答えたのは1名だけであり、携帯トイレの認知度は高いレベルにあると考えられる。

詳細は下記のとおり。







#### ○その他の意見・要望等

- ・分岐道、標識が分かりにくい
- ・道が悪い
- ・南沼に行く途中に携帯トイレブースが欲しい
- ・水源を整備して欲しい
- ・泥濘箇所の整備

以上のような聞き取り結果から、携帯トイレに関する認知度は高い水準であり、これまでの普及啓発の成果があると考えられる一方で、南沼に行く途中に携帯トイレブースが欲しいという意見は以前から多く聞かれていたことから、設置の可能性について、関係者間での検討が必要と考えられた。



8月8日アンケート調査の様子

#### 4. 今後の南沼プロジェクトの取り組みについて

今年度試行した携帯トイレ配布ボックスの利用率は想定を上回るものであり、これまでの普及啓発活動の成果が感じられた。あくまで協力金という形ではあるが、携帯トイレの補充サイクルが途絶えないよう、補充分の原資となる協力金の回収率向上のため、現在の「1個500円」に加え、「2個で1000円」と表示するなど更なる工夫が必要であると感じている。来年度も配布ボックスを設置し、引き続き携帯トイレの使用率向上に努めていく。

それに伴い、使用済み携帯トイレの回収についても、回収頻度を増やす、現行よりも大きな回収ボックスにするなどの検討を進めていく必要がある。

アンケート調査についても、携帯トイレの普及状況や利用者からの意見を聞ける貴重な機会であることから、継続していきたい。

今年度のアンケート調査では「携帯トイレを持つのは当たり前」との声も聞かれ、大雪山、トムラウシにかかわらず登山者の意識が向上してきていると感じている。関係者同士で協力し合い、活動を続けていくことで更なる携帯トイレの普及、そしてトムラウシ山の汚名を返上できるよう今後も取り組みを進めていきたい。